

シドニーにおけるナイトタイムエコノミー¹の推進と

飲食ビジネス展開の可能性について

一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所 研修生 根木 勇也

1. シドニーのナイトタイムエコノミー推進施策実施までの経緯

シドニーは住みやすさランキング²で2019年に世界3位となるなど、その整った生活インフラや治安、教育レベルの高さなどから移住、旅行、留学先としても国際的に人気の都市である。一方でナイトライフの面では、同年に最も退屈な街の一つ³として不名誉な称号を得た。それは2012年以降に相次いだ通り魔事件を契機に、ニューサウスウェールズ（以下「NSW」という。）州政府がロックアウト法⁴を導入し、シドニーの中心地区や歓楽街のナイトクラブやバーの営業時間が実質的に短縮されたことが原因と言われる。その影響で飲食店の売上減少やパフォーマーの閉業が起き、経済的損失は年間約160億ドル（約1.5兆円）とも言われ、ホスピタリティ業界から反発が起きていた。

それを受け、NSW州政府は2020年1月から同法を廃止するとともに、同年9月に「24時間経済戦略」を発表し、人口増加を目指した経済発展と雇用創出、そして新たな文化創出によるグローバルシティー化を目指す政策を開始した。

2. コロナ以降のナイトタイムエコノミーと今後の期待

ロックアウト法を廃止した矢先にコロナの流行が始まり、シドニーでは2020年3月末からロックダウンが実施され、解除後も在宅勤務の普及による中心街の人流減少でホスピタリティ業界は苦戦を強いられた。しかしその渦中においても、NSW州政府は同年12月からの未成年者の施設入場規制緩和や、酒類販売免許費用削減など段階的な規制緩和を推進し、法改正以外にも、パフォーマーへの補助金やワンストップ相談窓口の設置などの多様な支援策を講じている。

今後のNSW州政府の戦略として、管内自治体と連携した夜間照明の設置や、

¹ 日没時間の18時頃から翌朝6時頃までに行われる経済活動。

² Economist Group社の調査・統計部門が毎年発表するGlobal Liveability Ranking。

³ Time Out Group社が毎年発表するTime Out Indexより。

⁴ 飲酒による暴力行為を抑制するため、シドニーの中心地において午前1:30以降の客の入店と午前3:00以降のアルコール提供を禁止した法律。2014年2月施行。

空き施設等を利用したイベント開催なども計画している。イベント関連で言えば、シドニーでは光・音楽・発想の祭典「Vivid Sydney」(写真1)が州政府主催で毎年冬に開催され、約3週間にわたって建物のプロジェクションマッピングやイルミネーション作品展示が市内各所で行われる。人々の屋外での活動が停滞しがちな冬時期の経済活動を加速するものとして、今年は約2百万人を州内外から集客し、当地ホスピタリティ業界を中心に約1億2千万ドル(111兆円)もの経済効果を生んだ。来年は「Vivid Food」と銘打って飲食関連に注力した新事業を行うとも発表されており、NSW州では今後も政府主導のナイトタイムエコノミーのさらなる加速が期待される。



(写真1) 飲食をしつつオペラハウスを觀賞する人々 (Vivid Sydney の Facebook より)

3. オーストラリアへの飲食ビジネス進出の可能性

オーストラリアは豊富な天然資源と積極的な移民受け入れによる人口増加等により、コロナ前まで28年連続で経済成長を続け、コロナ以降の2021年第一四半期の実質GDPは前期比1.9%増とコロナ前の水準(2019年の0.5%)を上回るなど、今後も成長が見込める市場である。また国民一人あたりの可処分所得額では世界第8位と上位に位置しており、消費が期待できる市場ともいえる。

またオーストラリアは戦後の経済友好関係等により親日国の一つである。今年10月、過去20年間のGoogle検索数で日本が最も検索された旅行先となるなど、最近では日本への関心も高まってきている。2020年付近からは「omakase⁵」がGoogle Trendで急上昇し、日本食店での提供(主に寿司・焼き鳥・天ぷらなど)やメディアでの特集が増えるなど、日本食人気も衰えていない。本県企業が展開する「一風堂」(写真2)は、今年、コロナ規制の大幅な緩和後にシドニーで計2店舗を新規オープンする積極的な事業展開を図っている。またラーメン関連では、堀江貴文氏プロデュースの高級ラーメン屋(一杯約40ドル(3,700円))がカジノ施設にオープンし、同様に高級豚骨ラーメンを売りにする別の店も新たに開店するなど、裕福なオーストラリア人をターゲットにした日本食事業展開が続いている。



(写真2) オペラハウス付近の一等地にオープンした一風堂の新店舗

今後、政府主導のナイトタイムエコノミー推進施策が上手く進めば、夜間の消費行動の増加による市場の拡大が期待でき、その中での日本食のポテンシャルを活かした事業展開は十分に可能性を秘めている。今後も政策動向や市場状況を注視しつつ、ビジネスの機会を探っていきたい。

※為替レート 1AUD (オーストラリアドル) = 92.50円

⁵ メニューが予め決められておらず、シェフにすべてが一任されたコース料理を表す言葉。